

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 9月 27日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	34735003080		
法人名	北広島町社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム 松籟荘		
所在地	広島県山県郡北広島町川小田75		
自己評価作成日	平成26年8月20日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3473500308-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3473500308-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4丁目46-9
訪問調査日	平成26年9月26日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>・隣接の高等学校と交流会がある。（年4回） ・毎年納涼会を実施し、高等学校や地域住民の協力を得ている。 ・浴室改修や居室暖房設備を充実し、寒い冬期間を温かく過ごすことができる。 ・裏に畑があり、季節の野菜を育てたり収穫の楽しみがある。 ・ほぼ毎日買い物に出かけて店舗職員と顔なじみになっている。地域の方からも声をかけてもらう。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>自然環境に恵まれていて、近くに役場やバス停があり、買い物に便利なところに位置し、建物は新館旧館で、合わせて2ユニットの12名で家庭的な雰囲気の中で、生活されている。又、敷地内に畑があり、野菜作りを楽しみにされ、収穫した新鮮な野菜が、食卓にも並ぶ。近くに高校があり、ホームの法面の石垣に生徒と一緒に描いたというカラフルな花がより一層、明るくしている。理念に「居心地の良い笑顔あふれるホームを目指す」を掲げ、スタッフ一同、丁寧な介護を心掛けておられるホームである。</p>
---

グループホーム松籟荘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「居心地のよい笑顔あふれるホームを目指す」の理念のもと、入所者が地域の人たちと交流ができ笑顔で過ごせるように、職員が意識して日々を過ごしている。	事業所理念「居心地のよい笑顔あふれるホームを目指す」を掲げ、月1回会議に於いて、みんなで一緒に理念を唱和して実践している。又、自分たちで作ったユニットごとの目標を作成するよう検討もしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	ほぼ毎日買い物に出かけ地域の方とあいさつを交わしたり会話をしている。地域の行事に参加したり、地域の方を納涼会に招待したり、隣接の高等学校との交流事業を年4回行っている。	近隣の散歩に出かけたり買い物等に出た折に、馴染みになった方と会話をしている。また高校の文化祭や運動会に見学に行ったり、日常的に野菜やきのこ等を頂いたり交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域のサロンをホームで開いてもらったり、隣接の高等学校との交流事業を通して若い年代からも普及啓発に取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議メンバーに、入所者家族、地域住民、行政区代表、民生児童委員、行政、学校関係者、警察関係が入っており、有効な情報提供をもらって、事業に反映している。	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催しており、利用者家族、地元住民、老人クラブ、民生委員、地元警察、芸北分校職員、町職員、地域包括支援センター職員が出席し事故、ヒヤリハット等の報告・行事予定・状況報告等が行われ参加者と意見交換をしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進委員の中に地域包括支援センターの職員もおり、他方からの情報をもらったりホームの現状を理解してもらっている。	運営推進会議時や困難事例等現状や運営について報告相談を行ない助言や適切なアドバイスを頂いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	入所者の安全を第一に考えて、入所者の動向を把握し状況に応じて職員の同行や見守りで自由に過ごせる環境を作るよう取り組んでいる。	日中、玄関は施錠していない。利用者の生命または、身体を保護するための緊急やむを得ない場合を除き、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	行政集団指導や研修に参加し、日々意識に努めている。		

グループホーム松籟荘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	行政主催の会議に出席したり職員会議の研修に取り入れる等、職員全体で共有するようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	項目ごとに説明と確認を行いながら実施している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議のメンバーに家族代表を入れ、要望等を外部へ知ってもらうようにしている。家族会を年3回開催し、意見や要望を聞いている。	家族来訪時や家族会等で意見や要望を聞いている。、ひな祭りに利用者全員が、着物姿で、写真を取ったりして楽しんで、おはぎ作りをしたり利用者の残存能力を維持出来るよう支援している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月定例の職員会議や、毎日のミーティングにおいて意見や提案を受け、運営に反映している。	毎月のミーティングや日々のケアの中で職員の意見を聞き検討している。利用者の脚力の低下していることを取り上げ座位での体操以外に立位での足踏み、かかと上げを行うことにしたり、まな板の使い分け等提案し、改善に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の声を吸い上げ、職場改善に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	専門知識を深める研修を実施したり、外部研修を受ける機会を取り入れ、各自向上につとめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	芸北地域連携会議主催の勉強会への出席を通して、他の事業所と交流や情報交換をおこなっている。		

グループホーム松籟荘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	見学に来られた時や、入居面接時にはゆっくり話を聴き、安心してもらえる雰囲気作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	見学に来られた時や、入居面接時にはしっかり話を聴き、ホームでの生活等について不安や誤解のないよう話をするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や家族の訴えをよく聞き、必要な支援を見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	尊敬の気持ちを常に持ち、信頼できる関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日頃の様子を詳しく伝え、盆、正月その他の外泊や外出の協力を得ている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	知人や近所の方の面会を積極的に受け入れ、ゆっくり面会が出来るようにしている。	ホームに馴染みの人や地域の人が尋ねて来てくれ、納涼会等にも参加され交流できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員が間に入って良好な関係を支援している。必要な場合はユニット替えも行う。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	家族の支えになるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりのペースや状態の把握に努めている。希望や意向が把握困難な場合は、集団の一人として尊重するようにしている。	利用者の習慣や思考を把握し本人の意向、希望を第一に考えている。思いを伝えられない利用者には、表情や反応で確認しながら利用者本位の視点に立った支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人、家族、親しい方、ケアマネ等からの情報をもとに記録し、職員が共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	小さな変化も見逃さないように記録に残し、共有するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	家族からの意見や、職員の意見をもとに日々の入所者の状況を把握し、そのひとらしく生活できるよう計画の見直しを行っている。	利用者の日常の状況を把握しケア会議・担当者会議で、計画作成担当者、職員、家族等で検討し、利用者本人の意向を大切に介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別に記録し、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	取り巻く状況に応じて細かく支援できるよう臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域行事への参加や交流事業など地域資源を活用して、入所者に心身のメリハリを持ってもらうよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医がおり、いつでも相談できる様連携を取っている。月1回定期受診を行っている。(冬期間は往診)専門医への紹介もある。	利用者の健康管理には常に気を配っている。協力医療機関や福祉機関との連携が図れていて、冬期間は、往診で対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員を配置し、いつでも相談できる体制を取っている。主治医とも看護師を通じて24時間体制での連絡・相談が可能である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、定期的に病院関係者や家族と情報交換している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所者や家族の要望に応じて、主治医と連携を図りながら、看取りを行うよう職員全員で意識統一の徹底や、マニュアルづくりに取り組んでいる。	重度化した場合や終末期における看取りに関して、利用者や家族の要望を聞きながら利用者本位に考えていて、出来る限りの支援を行う。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	消防職員の指導により、救命救急公衆を受け技術向上に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防職員の指導により、地域の方を交えて消防避難訓練を年1回行っている。	年1回消防署の指導のもと、避難訓練を行っている。当日は、地域住民の18名を含み利用者、職員を合わせて40名あまりで実施され、避難経路や消火器の使い方等行った。地域との協力体制がある。	昼間に夜間想定等、日ごろの訓練の大切さを考えるにつけ、年2回、実施されることを希望します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員同士が注意し合って、尊厳やプライバシーに配慮した対応を心がけている。	職員会議や研修で、慣れることからの言葉がけをお互い意識して、利用者の誇りやプライバシーには常に配慮した対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入所者本位を意識して、自己決定のできる声掛けをするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	全体の流れはあるが、臨機応変に一人一人のペースで過ごせるよう支援している。		

グループホーム松籟荘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入所者の思いを大切に支援している。美容院へ出かけたり、出張してもらったりして希望に沿うようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	畑で収穫した季節の野菜を使って、季節ごとの行事食も取り入れ、準備から片付けまで職員と一緒に、入所者が出来ることをしてもらっている。	おでんやバーベキューやソーメン、時には、弁当にしたりと変化させて、食事を楽しみなものになるよう工夫している。又、利用者の心身の状態に合わせ、適正で本人の出来る事をしていただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人一人の食事量などを把握し、水分をしっかりとり、おいしく食べられるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、その方の状態にあわせた声掛けや介助をおこなっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用して一人一人の状況を把握し定期的な声掛けやトイレ誘導を行い、排泄の失敗を減らして自立へ向けた支援を行っている。	利用者それぞれの排泄のパターンを把握して、誘導やケアのタイミングを図り、各人に合わせた介助に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	一人一人の排便状況を把握し、食材の工夫や水分摂取の声掛けを行っている。主治医へ相談することもある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入居者の状態に応じて、清拭や足浴を行い清潔保持に努めている。浴室改修を行い快適な入浴ができるよう支援している。	今回、浴室の脱衣室を拡張したり、新たに温水器を設置して、環境の整備を整え快適な入浴が出来るよう支援している。入浴は、週3回を基本としているが、本人の希望があれば支援の体制もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入所者の習慣や体調にあわせ、自分のペースで休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の変更、調整は主治医、薬剤師の指導のもと、正しく服薬できる様職員間で共有している。		

グループホーム松籟荘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	体調に合わせながら、気分転換ができるよう散歩や買い物、ドライブ等の支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ほぼ毎日買い物に出かけ地域の方とあいさつを交わしたり会話をしている。家族と一緒に食事に出かけたり、外で食事をとるように工夫したりして、気分転換を図るようにしている。	日常的に近隣への散歩をしている。時には、寺参りや外食したり、動物園に出かけている。家族とともにアクアスに出かける予定もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	日常ではお金を使うことは無いが、買い物ツアーや外出の際は好きなものを購入できるようにお金を所持し使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族から必要なものが宅急便で届いたときや、家族に相談したい時等希望に応じて電話できるよう支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節ごと玄関や共有場所に花を飾ったり、外出や行事の写真を壁に貼ったり、居心地良く過ごせるよう工夫している。畳でくつろげるようにしたり、仏壇にお参りすることもある。	共用スペースは、採光も良く、明るい。対面式のキッチンからは、ご飯の炊ける匂いや魚を焼くにおいがして、家庭的な雰囲気がある。リビングは、床暖房になっていて、冬場も快適に過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有場所で過ごすことが多く、テレビを見たり気の合う入所者同士話をしたりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れたなじみのものに囲まれるよう家族に協力してもらっている。	各居室には、利用者や家族が相談して、寝具や家具や家族の写真等の馴染みの物を持参して、本人が居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	出来ないところはさりげなく援助して、安全に自立した生活が送れるよう支援している。		



グループホーム松籟荘

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム松籟荘

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム松籟荘

作成日 平成 年 月 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	12	職員がやりがい、向上心を持って働ける職場環境が整備されていない。	入所者が笑顔で過ごせて、職員も笑顔で対応できる。	職員が、負担に思っている日常業務の簡素化や、分担をする。職員の声を吸い上げ改善につなげる。	1年間
2	19	松籟荘便りが作れていない。	日常の様子を家族に知らせる。	請求書を発送する際に行事予定や、日常を報告できる文書を同封する。	1年間
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。